



# トークセッション開催 光るアイデア 表現する仕事を 選んだ人たち

1月に旭川西高校で、在校生が将来の職業を  
考えるきっかけとなるよう、同校の卒業生が仕  
事について講演する「鈴蘭塾」が開かれ、トー  
クセッションとワークショップが行われました。  
テーマは「表現するプロたち」。現在、様々な  
分野で活躍している5人が、高校時代の思い出  
や仕事のやりがいなどを話しました。内容の一  
部を要約して紹介します。

## 独創性を磨く努力を

〜鈴木敏朗さん

大学3年生のときに、マス  
コミ志望者向けの講座で書い  
たコントが一干以上の作品の  
中から最優秀賞に選ばれたの  
をきっかけに、「コピーライタ  
ーを志しました。

コピーライターは、アーテ  
ィストではなく、クライアント  
の思いに添えるのが仕事。  
1つの商品が誕生するまでに  
は、技術者や製造者、営業担  
当者など多くの人が関わります。  
私は最後にバトンを受け  
取り、商品に込められた様々  
な思いを広告という形にして  
提案しています。広告が影響  
して商品が売れたときに、こ  
の仕事の面白さを感じます。  
平和通買物公園が当時の市  
長の発案から誕生したように、

全てのことは、たった一人の  
アイデアから生まれています。  
皆さんも独創性を持つととし  
続ければ、きっと面白い展開  
が待っています。

## スケッチを大切に

〜小林達夫さん

高校3年生のときに建築家  
を志し、大学卒業後に設計事  
務所に入社して旭川エスタ(現  
在は閉店)の設計にも携わり  
ました。建物は生き物です。  
ですから、完成後に、人に利  
用されて何十年もかけて育つ  
ていきます。建築家は建物や  
都市を通して、人と関わる仕  
事だと言えますね。制約があ  
る中で、ものを作り出すのは  
苦しいですが、その分、建物  
が利用される瞬間の喜びは大  
きいです。

ものづくりに大切なのは常



トークセッションには、旭川西高校の1・2年生が授業の一環として全員参加。質疑応答も行われた

## 高校時代に気付いたこと

〜加藤千恵さん

高校生のときに生徒会役員  
として、先輩や先生方と関わ  
りながら様々な活動に取り組  
む中で、将来は人と関わる仕  
事をしたいたいと思うようにな  
りました。

私の仕事は、お菓子をどう  
食べてもらうかをトータル的  
にお伝えすることです。私自  
身、中学生のときに家族で楽



映画録音技師  
浦田和治さん

昭和51年に公開された映画の録音を初担当。その後、多くの映画制作に携わる。白石和彌監督の映画には、デビュー作を含め4作品を担当



映画監督  
白石和彌さん

助監督として多くの映画制作に携わった後、監督となり、数々の映画賞を受賞。昨年公開の「彼女がその名を知らない鳥たち」でブルーリボン賞監督賞受賞



洋菓子研究者  
加藤千恵さん

短期大学を卒業後、客室乗務員に。退職してフランスやドイツで製菓を学んだ後、お菓子教室を主宰。著書は80冊以上



建築設計家  
小林達夫さん

都市施設・商業施設のトータルプランナーとして、企画・基本・実施設設計に携わる。池袋西口の地下街や札幌エスタなどの設計も担当



コピーライター  
鈴木敏朗さん

大学卒業後、コピーライター、クリエイティブディレクターとして、多くの企業の広告制作に携わる。朝日広告賞や毎日広告賞などの受賞多数



生徒がケーキのアイデアを発表したり、自作の動画を披露したりするワークショップも実施

しくケーキを作って食べたり、客室乗務員として行った海外の優雅なホテルでお菓子を味わったときに、一層おいしく感じたりした経験があり、お菓子のおいしさを決めるのは味や作り方だけではなく、食べる場所の雰囲気づくりなども大切だと考えています。

主宰するお菓子教室では、子供のためのおやつや友人へのお土産など、食べてもらう相手や場面に合ったお菓子のレシピを考案し、教えているのが、私のやりがいです。

高校時代の学校祭で、役割を決めて共同で1つのものを作っていくのが楽しく、達成感もあったので、将来はこのような仕事をしたいと思いました。映画は、200人以上のスタッフとコミュニケーションを取りながら作り上げていくので、学校祭と似ていますね。どうすればなるのかわからない職業ほど、自分でよく調べますから、たどり着きやすいと思います。

自分としては、映画の完成度はいつも20〜30%です。でも、「もう少しこうしていれば」という気持ちで、次の作品づくりにつながっています。悔いが残ることも表現することの面白さです。これからの目標は、旭川を舞台にした映画を撮ること。西高も使いたいですね。心技体が充実している40歳代のうちに、実現できればと思っています。

みんなで作り上げる楽しさ  
〜白石和彌さん

好きなことを追求しよう  
〜浦田和治さん



高校時代は、部活動はせず、映画ばかり見ていました。京都の大学に通っているときに演劇と出会い、好きな音楽の分野で関われないかと思って、今の仕事に就きました。荷物持ちから始め、当初は給料も安かったですね。

たくさんの方が関わる映画制作の中で大事なのは、自分の意見を出していくことです。共同作品は、一人一人が意見を持っていないと作ることができません。それぞれの意見を合わせて1本の映画を仕上げていく過程には、何とも言えない楽しさがあります。

「好きこそ物の上手なれ」という言葉がありますが、好きなことを続けなければ必ずスキルアップしていきます。皆さんも、失敗を恐れずに頑張ってください。